

梯川水系河川整備基本方針の変更について ＜参考資料＞

令和7年2月7日

国土交通省 水管理・国土保全局

①流域の概要

江戸時代の小松城と現在の小松市街地



水路に囲まれた「水に浮かぶ城」だった小松城とその城下町が小松市街地の原型かつての水路が梯川や支川となり、低平地に都市が発展。現在は河川・水路・排水機場等の整備により歴史的に形成された市街地の水害対策を実施し、まちづくりと連携

【3・4・5号根上小松線】

本路線は根上町（現能美市）から小松駅への直通路線であり、幹線道路として位置づけられている。

- 一級河川梯川改修事業に伴う小松大橋の架替
- これに伴い、約620m区間について道路線形を変更

大川原やわらぎ街道まちづくり
完成式典 (H27.3.8)

⑤河川環境・河川利用についての検討

○4～5k区間は、梯川下流域の特徴であるヨシが多く分布する区間(代表区間)となっており、下流域における河川整備の目標とする。

○3～4k区間には、絶滅危惧種のセイタカヨシの群落が分布しており、当該群落の保全を図る。

河川環境区分1：下流域 (-1.0k～8.0k)
河床勾配1/4,500

a)生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)		-1	0	1	2	3	4	5	6	7	
大セグメント区分		汽水域									
河川環境区分		区分1									
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	△	△	△	△	○	○	○	○	○
		2. 河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		4. 外来植物生育地	△	×	△	△	×	×	△	×	×
	水際域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		6. 水際の自然度	△	△	○	○	△	○	○	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	○	△	○	○	○	△	△	○
	水域	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		9. ワンド・たまり	-	○	△	○	○	○	-	△	△
		10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	△	△	○	○	○	○	△	△	○
生息場の多様性の評価値		0	2	0	4	3	4	1	2	3	

b) 生物との関わりの強さの評価

距離標(空間単位:1km)		-1	0	1	2	3	4	5	6	7	
大セグメント区分		汽水域									
河川環境区分		区分1									
重要種数	魚類(R1)		3						3		
	底生動物(R2)		5								
	植物(H29)		1		1	1				1	
	鳥類(H28)		1	1	1	2	1	1	1		
	両・爬・哺(R3)			1							
	陸上昆虫類(R4)		6								
重要種全体合計		0	16	2	2	3	1	4	2	0	
特徴づける種(注目種)の個体数と依存する生息場の	魚類	キタノメダカ		3					3		
		ワンド・たまり	○	△	○	○	○		△	△	
		ワカサギ		1							
		ヨシ原	△	△	○	○	○	△	△	○	
	鳥類	オオヨシキリ				2	1	8	2	3	3
		ヨシ原	△	△	○	○	○	△	△	○	
	昆虫	ヤマトヒメメダカカッコウムシ		12							
		ヨシ原	△	△	○	○	○	△	△	○	
生物との関わりの強さの評価値		0	1	0	4	4	4	0	0	3	

【下流域の現状】

○水際にはヨシが分布し、オオヨシキリ、ヤマトヒメメダカカッコウムシが生息・繁殖している。

○水域にはスズキやメナダといった汽水魚や、ワカサギやカマキリといった回遊魚、ギンブナやウグイといった淡水魚が多く生息・繁殖し、キタノメダカやテナガエビ等の生息場となるワンド・たまりも見られる。

○3～4k区間に絶滅危惧種であるセイタカヨシの群落がある。

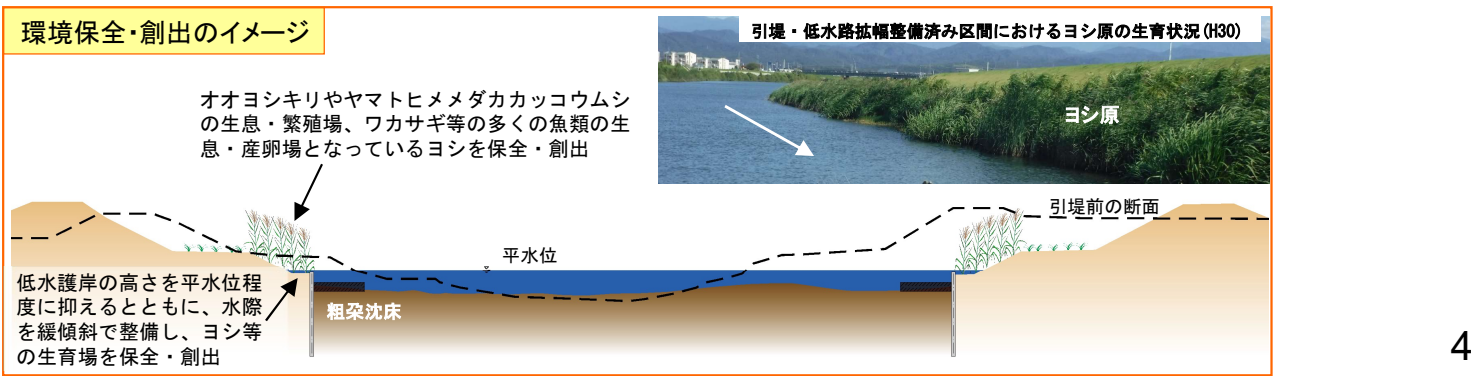
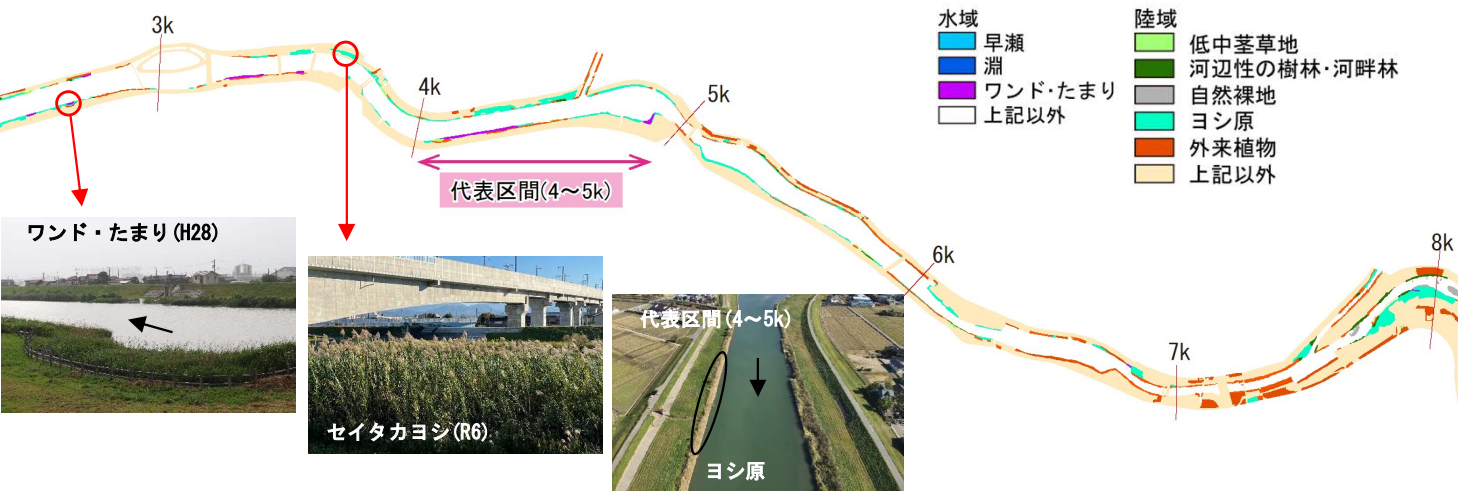
【環境の保全・創出の方針】

○オオヨシキリやヤマトヒメメダカカッコウムシの生息・繁殖場、ワカサギ等の多くの魚類の生息・産卵場となっているヨシの保全・創出を図る。

○低水路拡幅をする際の護岸整備(6～8k区間)にあたっては、高さを水面以下に低く抑えることで水際の連続性を確保するとともに、ヨシ等の水際植生の生育場を創出する。

○キタノメダカ等の生息場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。

○絶滅危惧種のセイタカヨシ群落の保全を図る。



○梯川では、アユやカマキリなど多くの回遊魚が生息しており、地域活動団体が手作り魚道を取水堰に設置するなど、魚類の移動の連続性確保に向けた取り組みを行っている。

御茶（おちゃ）用水頭首工(12. 1k)



軽海（かるうみ）用水頭首工(11. 2k)



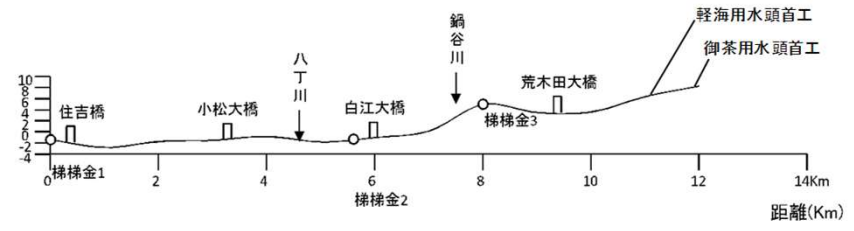
手づくり魚道の設置 (軽海用水頭首工)



横断工作物位置図



標高 (m)



河川形態	Bc型	Bc型	Bb型
	1/4500	1/4500	1/672
河床勾配	1/4500	1/4500	1/672
	1/4500	1/4500	1/672
回遊魚	ウグイ	●	●
	ワカサギ	●	●
アユ	●	●	●
	サケ	●	●
カマキリ	●	●	●
	カジカ中卵型	●	●
カワアナゴ	●	●	●
	ヌマチチブ	●	●
シマヨシノボリ	●	●	●
	オオヨシノボリ	●	●
ゴクラクハゼ	●	●	●
	トウヨシノボリ類	●	●
スミウキゴリ	●	●	●
	ウキゴリ	●	●

河川水辺の国勢調査結果(R6)より整理

回遊魚の確認状況

○カモ類は、越冬・休息・採餌・繁殖場として梯川を利用し、植物や昆虫類・魚介類等の様々な生物を餌としている。

梯川に生息するカモ類(河川水辺の国勢調査)

グループ ※2	No.	科和名	種和名	渡りの 区分	河川水辺の国勢調査					河川における生息時期※2												依存する生息場等※1			
					H3	H8	H13	H18	H28	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	代表的な利用環境	場の 利用時期	場の利用	食性
越冬場所として水域全体を利用	1	カモ科	ホシハジロ	冬鳥			●	●	●													(河口の砂泥底)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	植物食傾向の雑食で、種子、葉、芽、地下茎、昆虫(ユスリカ)、貝類(ホトトギス貝、アサリ)、環形動物、魚類、両生類、甲殻類
	2	カモ科	キンクロハジロ	冬鳥		●		●	●													(河口の砂泥底)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	貝類(シジミ)、水生昆虫(ユスリカ幼虫他)、甲殻類、魚類、カエル、水生植物
	3	カモ科	ズバガモ	冬鳥				●														(河口の砂泥底)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	雑食性だが、水底の巻貝類や二枚貝類(アサリ、シジミ)の動物食が主要
	4	カモ科	ミコアイサ	冬鳥				●														広い開放水面	越冬期	採食環境	動物食傾向の強い雑食で、主に魚類を食べるが、カエル、昆虫、甲殻類、植物の葉、根、種子
	5	カモ科	カワアイサ	冬鳥					●													広い開放水面	越冬期	採食環境	魚、エビ
越冬場所として浅場を利用	6	カモ科	オカヨシガモ	冬鳥		●	●	●	●													(水田域)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	雑食性で、種子、茎、葉、根、水生植物、昆虫、魚類、両生類
	7	カモ科	ヨシガモ	冬鳥		●																(水田域)広い開放	越冬期	採食・休息環境	植物食で、種子、水生植物、海藻
	8	カモ科	ヒドリガモ	冬鳥	●	●		●	●													(水田域)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	雑食性で、稲もみ、イネ科植物の実、海藻、ウキクサ、沈水植物、ユスリカ幼虫
	9	カモ科	マガモ	冬鳥	●	●	●	●	●													(水田域)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	植物食が主の雑食で、水草の葉や茎、植物の種子、貝
	10	カモ科	ハシビロガモ	冬鳥	●	●		●	●													広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	植物食傾向の強い雑食で、プランクトン(主にケンミジンコ類、ワムシ類)、種子、昆虫、軟体動物、魚類
	11	カモ科	オナガガモ	冬鳥		●		●														(水田域)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	雑食性で、イネ科植物の種子、イネの落穂、水草、貝類
	12	カモ科	コガモ	冬鳥	●	●	●	●	●													(水田域)広い開放水面	越冬期	採食・休息環境	植物食で、河川や湖沼などの水面から届く範囲の藻や水草
周年生息し浅場を利用	13	カモ科	カルガモ	留鳥	●	●	●	●	●													水辺の草地(湿性草地)	通年	営巣・採食環境	植物食で、植物の葉や種子
渡りの中継地に利用	14	カモ科	シマアジ	旅鳥					●													(水田域)広い開放水面	渡り期	採食・休息環境	雑食で、種子、水生植物、昆虫
不明	15	カモ科	オシドリ	留鳥			●	●														ワンド・たまり	越冬期	採食・休息環境	植物食傾向の強い雑食で、水生植物、果実、種子、昆虫、陸棲の貝類

※1の出典：河川環境管理シートを用いた環境評価の手引き「鳥類 注目種と依存する生息場」（国土交通省、令和5年）

※2の出典：鳥類の良好な生息場の創出のための河川環境の整備・保全の考え方(国土技術政策総合研究所・土木研究所、令和2年)

越冬

繁殖

非繁殖

渡り

梯川に生息するカモ類の集団分布地調査(河川水辺の国勢調査)

0. 5k カモ類集団休息地(H18) マガモ、カルガモ、コガモ等 計199羽	1. 2k カモ類集団休息地(H18) マガモ、カルガモ、コガモ等 計154羽	1. 4k カモ類集団休息地(H18) マガモ、カルガモ、オカヨシガモ等 計154羽	2. 5k カモ類集団越冬地(H18) マガモ、コガモ、ハシビロガモ 計150羽	4. 0k カモ類集団休息地(H18) カルガモ、コガモ 計150羽	5. 6k カモ類集団休息地(H18) カルガモ、コガモ 計107羽
3. 8k カモ類集団越冬地(H28) カルガモ、コガモ 計133羽	4. 8k カモ類集団越冬地(H28) カルガモ、コガモ、ヒドリガモ等 計140羽	5. 1k カモ類集団越冬地(H28) カルガモ、コガモ、ヒドリガモ等 計329羽	5. 1k カモ類集団休息地(H28) カルガモ、コガモ、ヒドリガモ等 計126羽		

本文 (一部抜粋)	区分	分類	掲載種	環境省 RL ※1	石川県 RDB※2	その他※3	根拠資料
源流から赤瀬ダムに至る上流部の河床勾配は、約1/10から1/60の急峻な地形で、県自然環境保全地域に指定されている鈴ヶ岳が存在し、この周辺には胸高直径1mを超える樹齢の高いブナ林が広がっている。やや標高が下がるとミズナラ、コナラ等の落葉広葉樹林が分布し、急峻な渓谷沿いではケヤキ等の渓谷林が分布している。クマタカやコノハズクといった生態系の上位に位置する鳥類や、カモシカ等の大型哺乳類、サクラマス（ヤマメ）やニッコウイワナといった渓流魚、カジカガエルやハコネサンショウウオといった渓流性の両生類、オオムラサキやヒメボタルといった森林性の昆虫類など、豊かな自然環境にみられる動植物が生息・生育・繁殖している。	上流域	植物	ケヤキ	—	—	—	第6-7回環境省自然環境保全基礎調査
			ミズナラ	—	—	—	第6-7回環境省自然環境保全基礎調査
			コナラ	—	—	—	第6-7回環境省自然環境保全基礎調査
			ブナ	—	—	—	第6-7回環境省自然環境保全基礎調査
		鳥類	クマタカ	IB類(EN)	II類	—	いしかわレッドデータブック2020
			コノハズク	—	II類	—	いしかわレッドデータブック2020
		哺乳類	カモシカ	—	—	国特天	石川県の哺乳類1999
		魚類	サクラマス(ヤマメ)	準絶	—	—	河川水辺の国勢調査H21
			ニッコウイワナ	情報不足	地域個体群※	—	河川水辺の国勢調査H21
		陸上昆虫類	オオムラサキ	準絶	準絶	—	いしかわレッドデータブック2020
			ヒメボタル	—	準絶	—	いしかわレッドデータブック2020
		両生類	ハコネサンショウウオ	—	—	—	石川県の両生・爬虫類1996
			カジカガエル	—	—	—	石川県の両生・爬虫類1996

※1 環境省レッドリスト2020

※ 無班タイプ

IA類(CR)：絶滅危惧IA類 IB類(EN)：絶滅危惧IB類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧 情報不足：情報不足

※2 いしかわレッドデータブック2020 植物編、いしかわレッドデータブック2020 動物編

＜植物編＞ I 類(CR)：絶滅危惧IA類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧

地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群

＜動物編＞ I 類(CR+EN)：絶滅危惧 I 類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧 情報不足：情報不足

地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群

※3 文化財保護法

国特天：特別天然記念物

本文 (一部抜粋)	区分	分類	掲載種	環境省 RL ※1	石川県 RDB※2	その他※3	根拠資料
赤瀬ダムから鍋谷川合流点に至る中流部の河床勾配は、約1/150から1/670で山地を大きく侵食し、加能八景の一つである荒俣峡といった風光明媚な溪谷景観が形成されている。周辺には里山に多くみられるコナラ林やスギ林、水田等が広がっており、サンコウチョウ等の鳥類が生息・繁殖している。 河川の水際にはツルヨシや自然裸地が分布し、ツルヨシにはオオヨシキリが、自然裸地にはイカルチドリが、水際にはヨコミゾドロムシが生息・繁殖している。堤防法面には絶滅危惧種であるウマノスズクサ※が生育・繁殖している。 特に8～9kの蛇行区間では、ヨシやツルヨシに営巣するオオヨシキリや崖地に営巣するカワセミ、礫河原に営巣するイカルチドリ、ススキに営巣するカヤネズミ、礫河床はアユやサケが産卵場として利用し、多様な生物の生息・繁殖場となっている。 ※環境省レッドリスト及び石川県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅰ類からⅡ類に指定されている種	中流域	植物	スギ	—	—	—	河川水辺の国勢調査R5
			コナラ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H29
			ススキ	—	—	—	河川水辺の国勢調査R5
			ウマノスズクサ	—	Ⅱ類	—	河川水辺の国勢調査H29
			ツルヨシ	—	—	—	河川水辺の国勢調査R5
		鳥類	オオヨシキリ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H28
			カワセミ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H28
			イカルチドリ	—	Ⅱ類	—	いしかわレッドデータブック2020
			サンコウチョウ	—	—	—	いしかわレッドデータブック2009
		哺乳類	カヤネズミ	—	準絶	—	河川水辺の国勢調査R3
		魚類	アユ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			サケ	—	地域個体群※	—	河川水辺の国勢調査H26
		陸上昆虫類	ヨコミゾドロムシ	Ⅱ類	Ⅱ類	—	河川水辺の国勢調査R2

※1 環境省レッドリスト2020

※ 野生繁殖群

ⅠA類(CR)：絶滅危惧ⅠA類 ⅠB類(EN)：絶滅危惧ⅠB類 Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類 準絶：準絶滅危惧 情報不足：情報不足

※2 いしかわレッドデータブック2020 植物編、いしかわレッドデータブック2020 動物編

＜植物編＞ Ⅰ類(CR)：絶滅危惧ⅠA類 Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類 準絶：準絶滅危惧

地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群

＜動物編＞ Ⅰ類(CR+EN)：絶滅危惧Ⅰ類 Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類 準絶：準絶滅危惧 情報不足：情報不足

地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群

※3 文化財保護法

国特天：特別天然記念物

【参考】本文掲載種の根拠資料(3/4)

本文 (一部抜粋)	区分	分類	掲載種	環境省 RL ※1	石川県 RDB※2	その他※3	根拠資料
鍋谷川合流点から河口に至る下流部は、小松市街地を貫流し、河床勾配は約1/4, 500で海水と淡水が混ざり合う感潮域が8kmにわたり続いている。このため、水域にはスズキやメナダといった汽水魚や、ワカサギやカマキリといった回遊魚、ギンブナやウグイといった淡水魚が多く生息・繁殖する河川となっている。 また、水際にはヨシが分布し、オオヨシキリ、ヤマトヒメメダカカッコウムシが生息・繁殖し、キタノメダカやテナガエビ等の生息場となるワンド・たまりもみられる。水際が緩斜面となり流れの緩いところではカモ類等が休息・越冬地として水面を利用している。3～4km右岸の高水敷には絶滅危惧種であるセイタカヨシの群落がある。	下流域	植物	セイタカヨシ	—	II類	—	河川水辺の国勢調査R5
		鳥類	オオヨシキリ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H28
		魚類	スズキ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			メナダ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			ワカサギ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			カマキリ	II類	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			ギンブナ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			ウグイ	—	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
			キタノメダカ	II類	—	—	河川水辺の国勢調査H30、H31
		底生動物	テナガエビ	—	準絶	—	河川水辺の国勢調査R2
		陸上昆虫類	ヤマトヒメメダカカッコウムシ	—	準絶	—	河川水辺の国勢調査R4

※1 環境省レッドリスト2020
IA類(CR)：絶滅危惧IA類 IB類(EN)：絶滅危惧IB類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧 情報不足：情報不足

※2 いしかわレッドデータブック2020 植物編、いしかわレッドデータブック2020 動物編
＜植物編＞ I 類(CR)：絶滅危惧IA類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧
地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群
＜動物編＞ I 類(CR+EN)：絶滅危惧 I 類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧 情報不足：情報不足
地域個体群：絶滅のおそれのある地域個体群

※3 文化財保護法
国特天：特別天然記念物

参考資料 流域及び河川の概要 (一部抜粋)	区分	分類	掲載種	特定外来生物※1	環境省外来種リスト※2	根拠資料
梯川では特定外来生物として、植物のアレチウリやオオキンケイギク、魚類のオオクチバスやコクチバス、ブルーギル、両生類のウシガエル、爬虫類のミシシippアカミミガメが確認されており、在来種の生息・生育・繁殖への影響が懸念される。 外来種群落のセイタカアワダチソウ群落とイタチハギ群落は、面積が増加傾向にある。なお、梯川では特定外来生物が優占する植物群落の確認はない。	外来種	植物	アレチウリ	○	緊急対策	河川水辺の国勢調査R5
			オオキンケイギク	○	緊急対策	河川水辺の国勢調査R5
			セイタカアワダチソウ	—	重点対策	河川水辺の国勢調査R5
			イタチハギ	—	重点対策	河川水辺の国勢調査R5
		魚類	オオクチバス	○	緊急対策	河川水辺の国勢調査H30、H31
			コクチバス	○	緊急対策	河川水辺の国勢調査H26
			ブルーギル	○	緊急対策	河川水辺の国勢調査H30、H31
		両生類	ウシガエル	○	重点対策	河川水辺の国勢調査R3
		爬虫類	ミシシippアカミミガメ	○	緊急対策	河川水辺の国勢調査R3

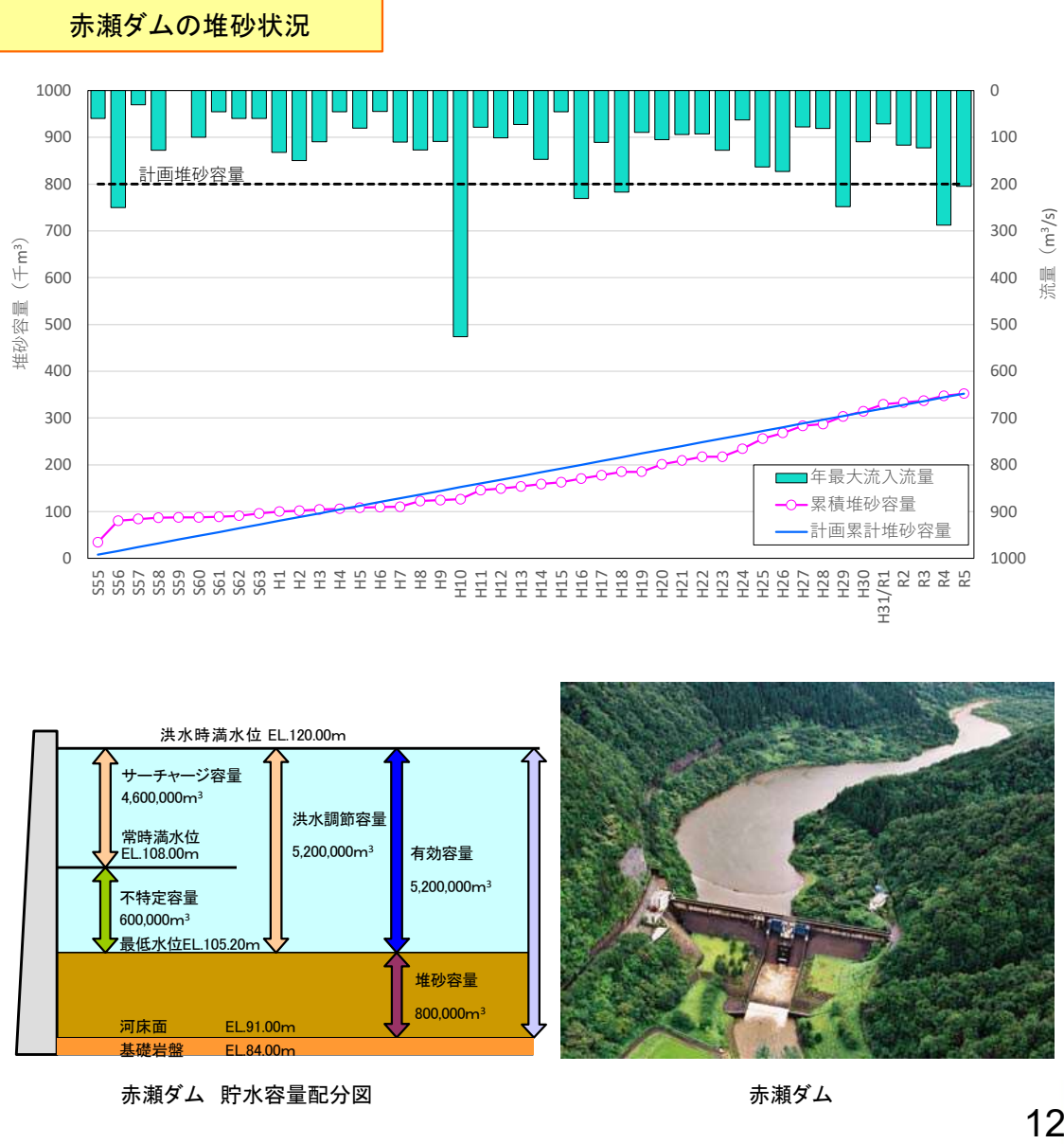
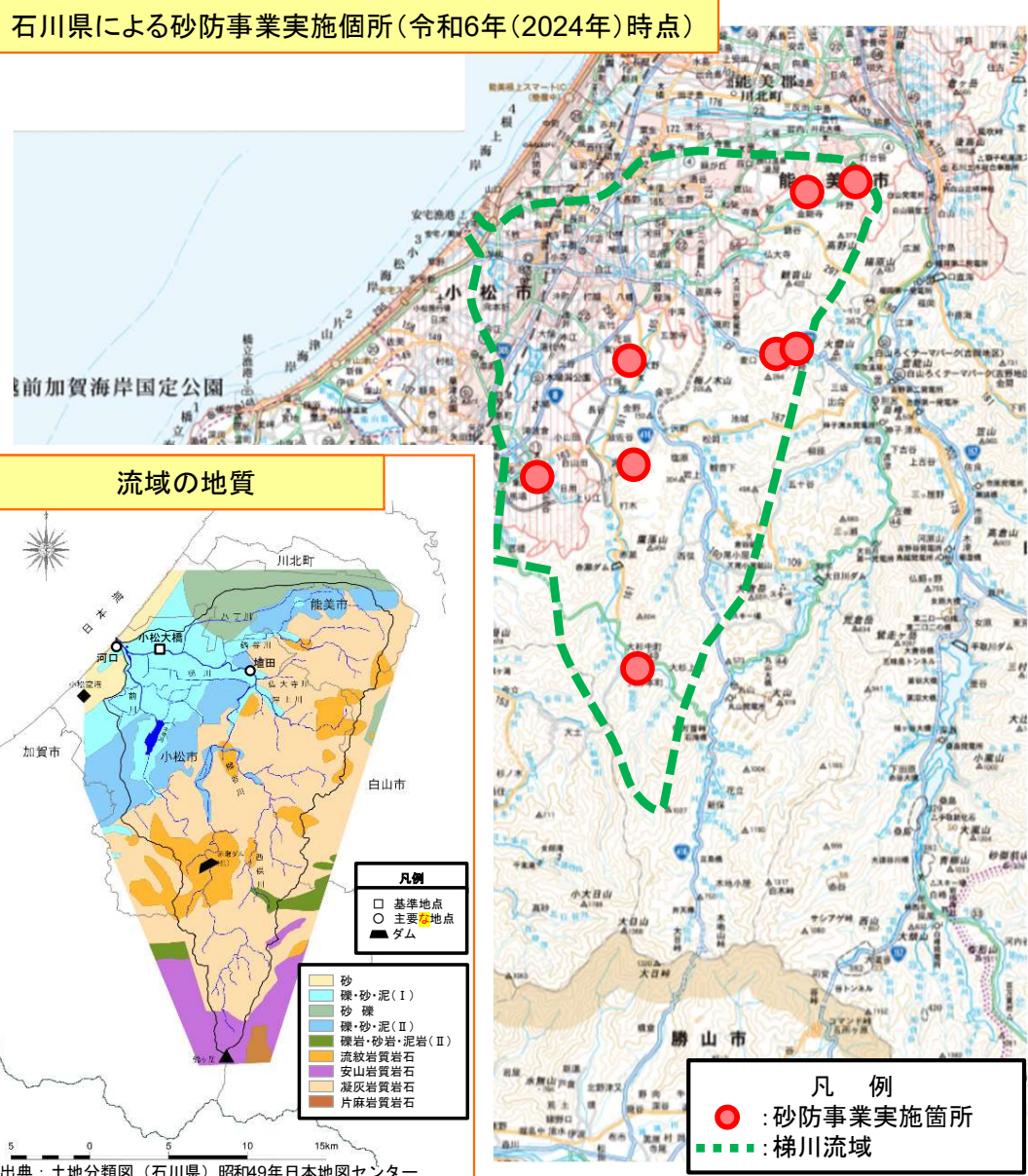
※1 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(令和4年5月改正)

※2 我が国の生態系等に被害を及ぼす恐れのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(環境省、平成27年)

緊急対策外来種	: 緊急対策
重点対策外来種	: 重点対策
その他総合対策外来種	: その他
適切な管理が必要な産業上重要な外来種	: 産業管理
侵入予防外来種	: 侵入予防
その他の定着予防外来種	: 定着予防

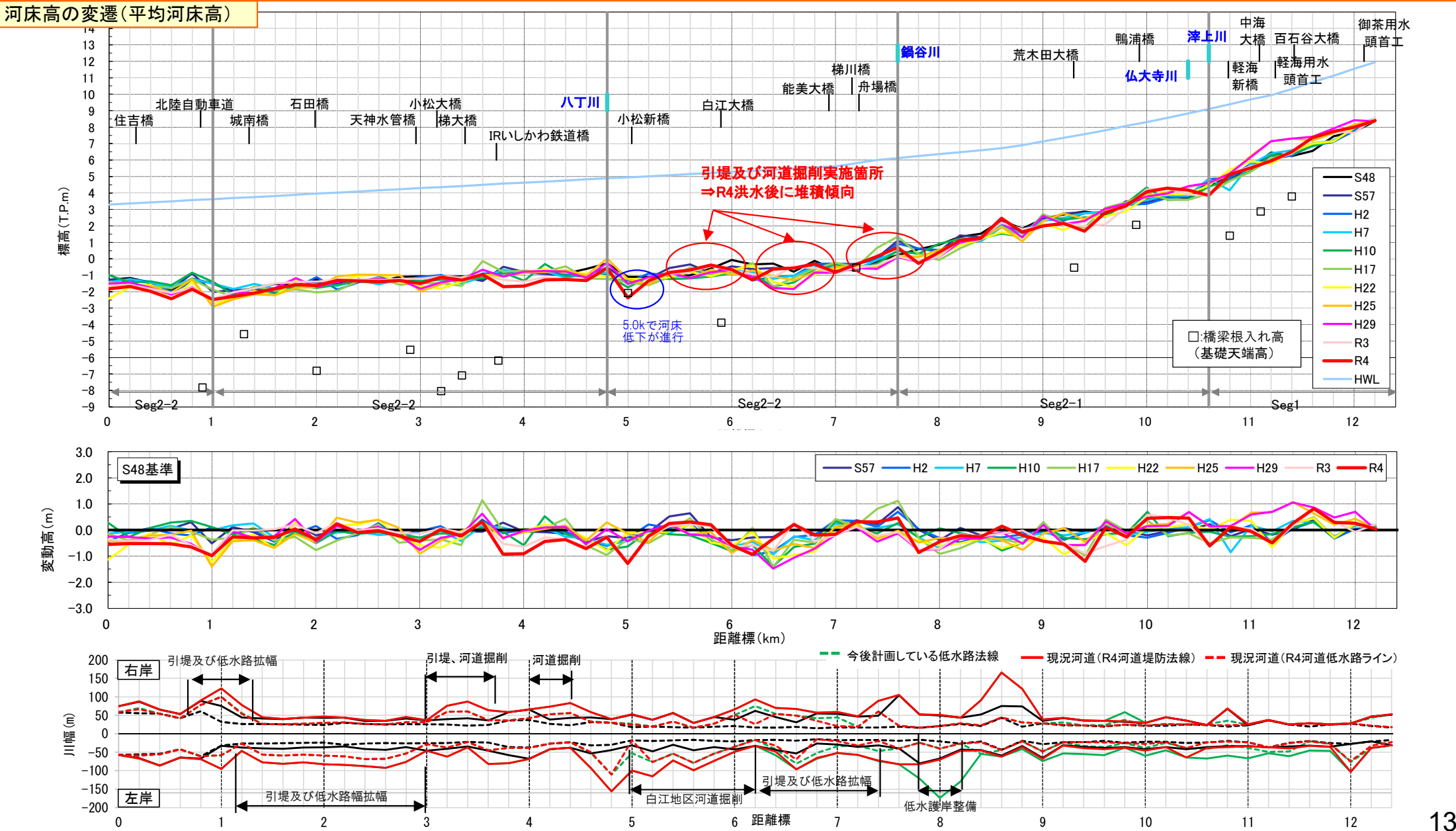
⑥総合的な土砂管理

- 流域の地質は、上流部の山地では新第三紀中新世に属する火山性岩石が分布し、安山岩類も見られ、大規模な荒廃地は見られず土砂生産は活発でない。
- 梯川上流では、石川県によりこれまで28基の砂防堰堤が整備されている。令和4年(2022年)8月豪雨を踏まえ、土石流から人家等を守るため、今後8基整備する予定。
- 流域内の赤瀬ダムの堆砂量の経年変化を見ると、計画堆砂容量は800千m³であり、昭和55年(1980年)～令和5年(2023年)において計画堆砂容量の44%(352千m³)となっている。これは令和5年(2023年)時点の計画値累計(352千m³)と一致しており、概ね計画堆砂容量で推移している。



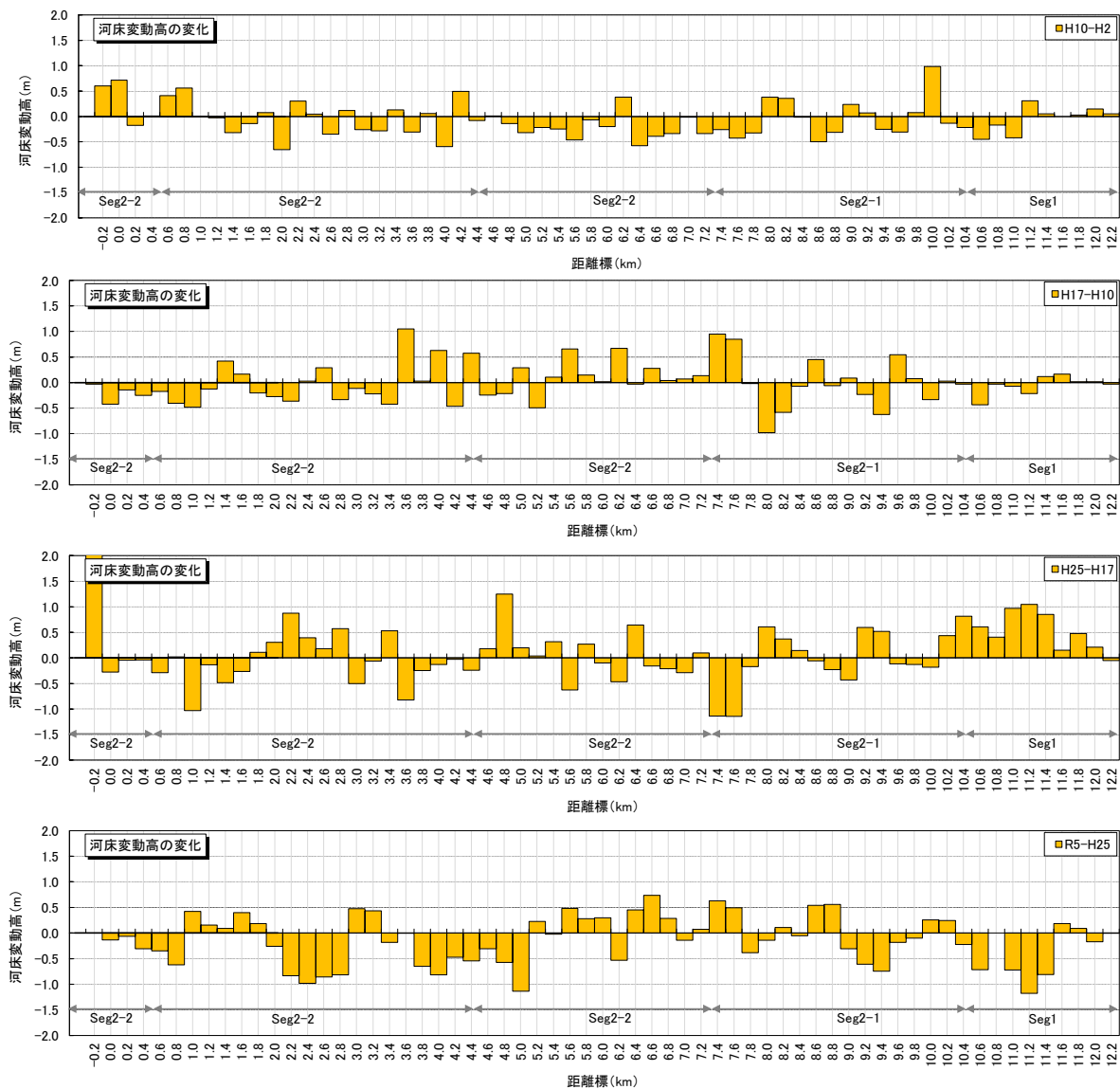
○侵食または堆積による河床の経年的な変動量は、昭和48年(1973年)～令和4年(2022年)の間で-1.2m～0.8m程度(1.2m/48年＝25cm/10年)であり、『河道計画検討の手引き』の河道の安定の基準(30～40cm/10年)以下であり、河床高は大きく変動しておらず全川で概ね安定の傾向が見られる。

○引堤及び河道掘削を行った6.0k～7.4kでは低水路幅が広がり、令和4年(2022年)8月洪水後の測量成果では堆積傾向となっている。

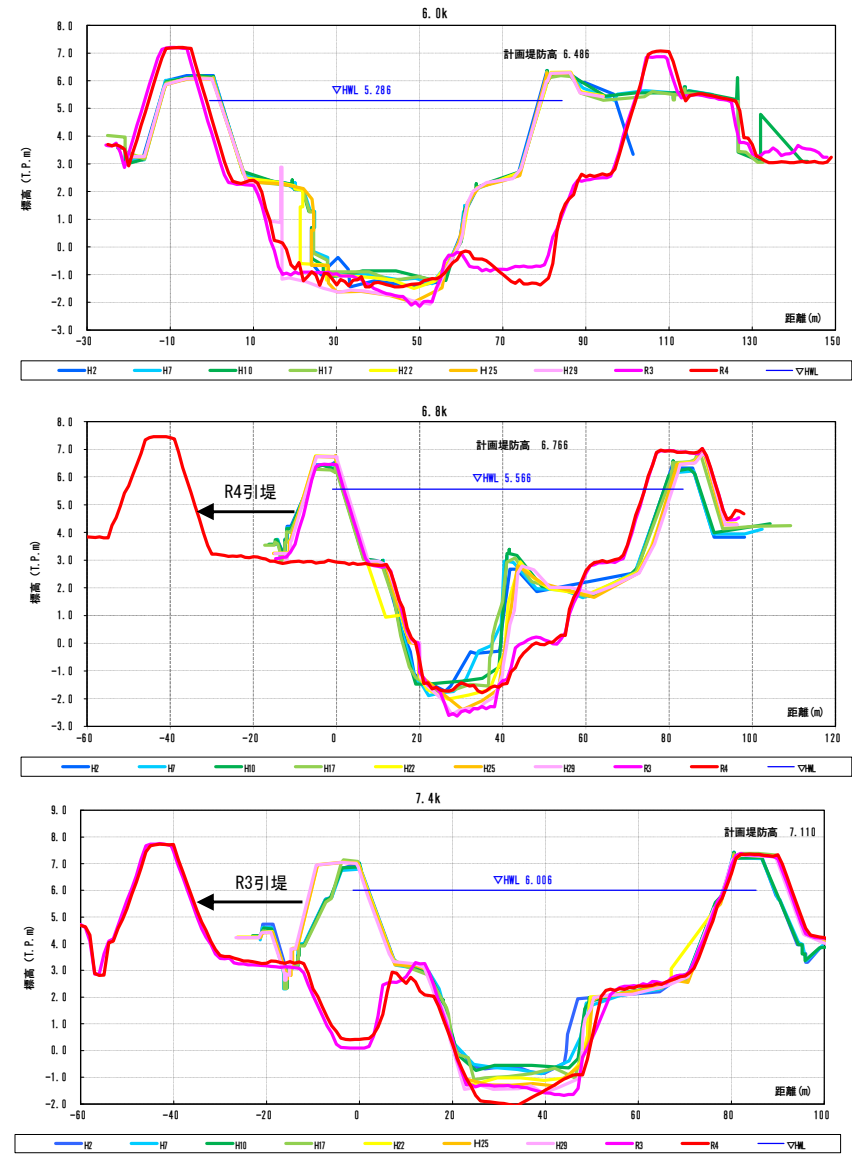


- 平均河床高の変動量を縦断的に比較すると、下流側で若干の洗掘傾向、中流から上流側にかけて局所的な変化がみられるものの、概ね安定の傾向が見られる。
- なお、梯川の砂利採取は、採取可能量がないことから、全川で砂利採取等の禁止区域となっている。

平均河床高の変動高の経年変化



横断図の経年変化



○大臣管理区間における河床材料の粒度構成は、セグメント2-2が砂成分、セグメント2-1、1の上流部は礫成分で構成されており、これらの粒度構成は、経年的に大きな変化は見られない。

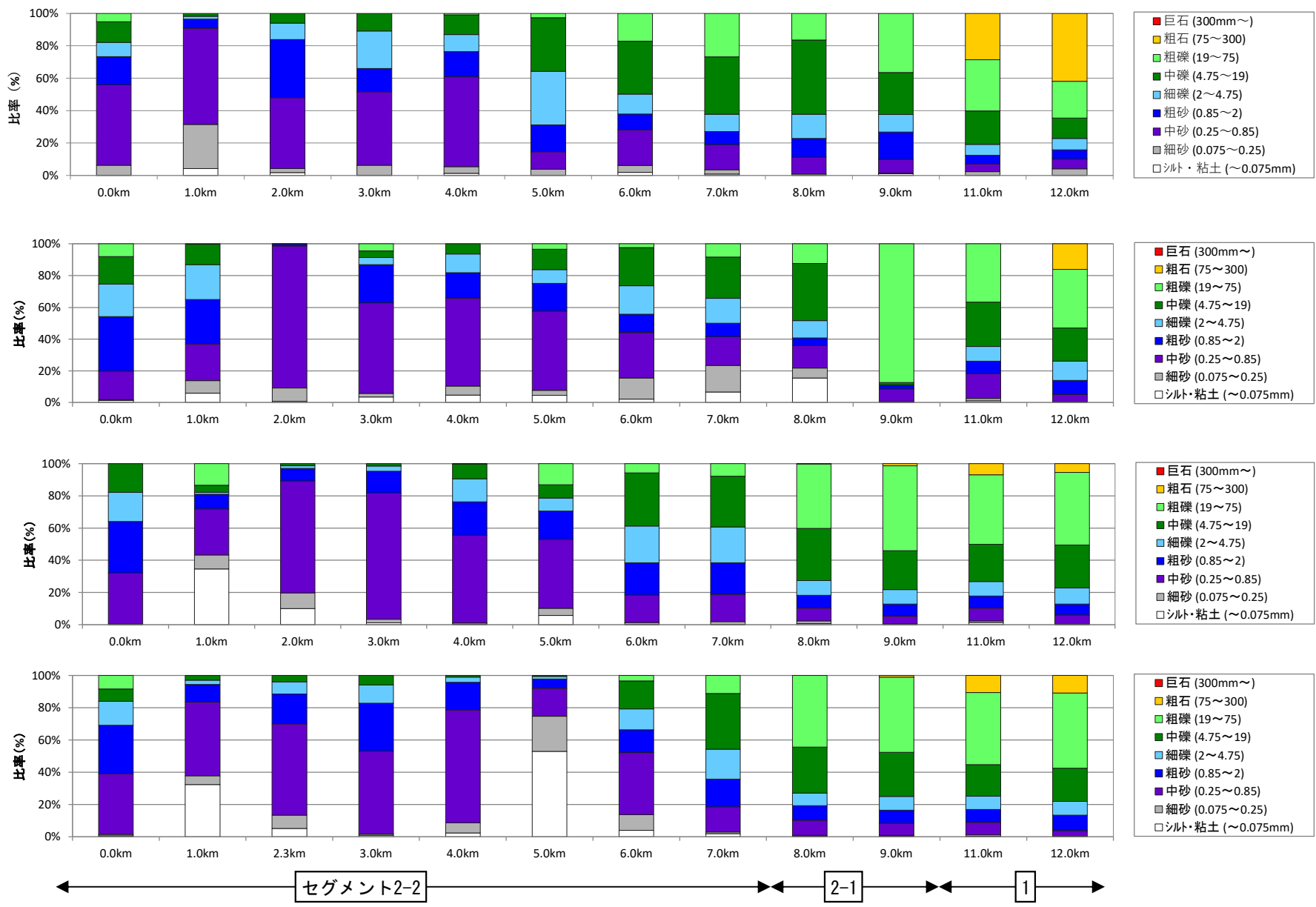
河床材料の経年変化

【平成18年調査】

【平成25年調査】

【平成30年調査】

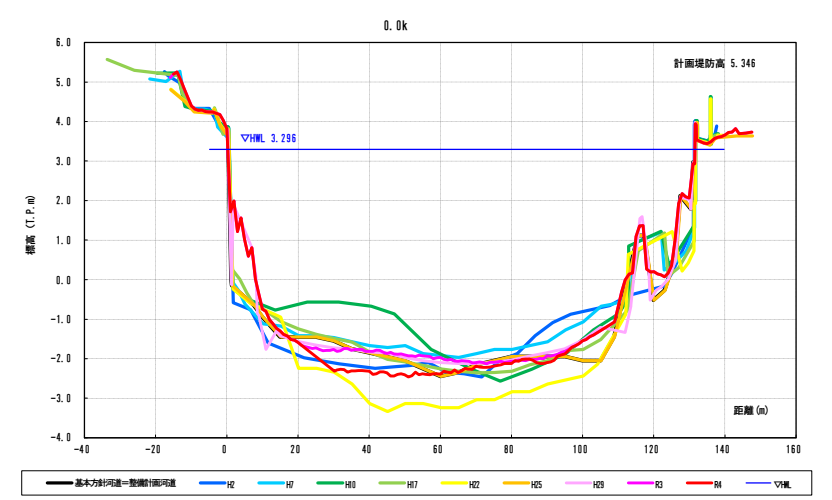
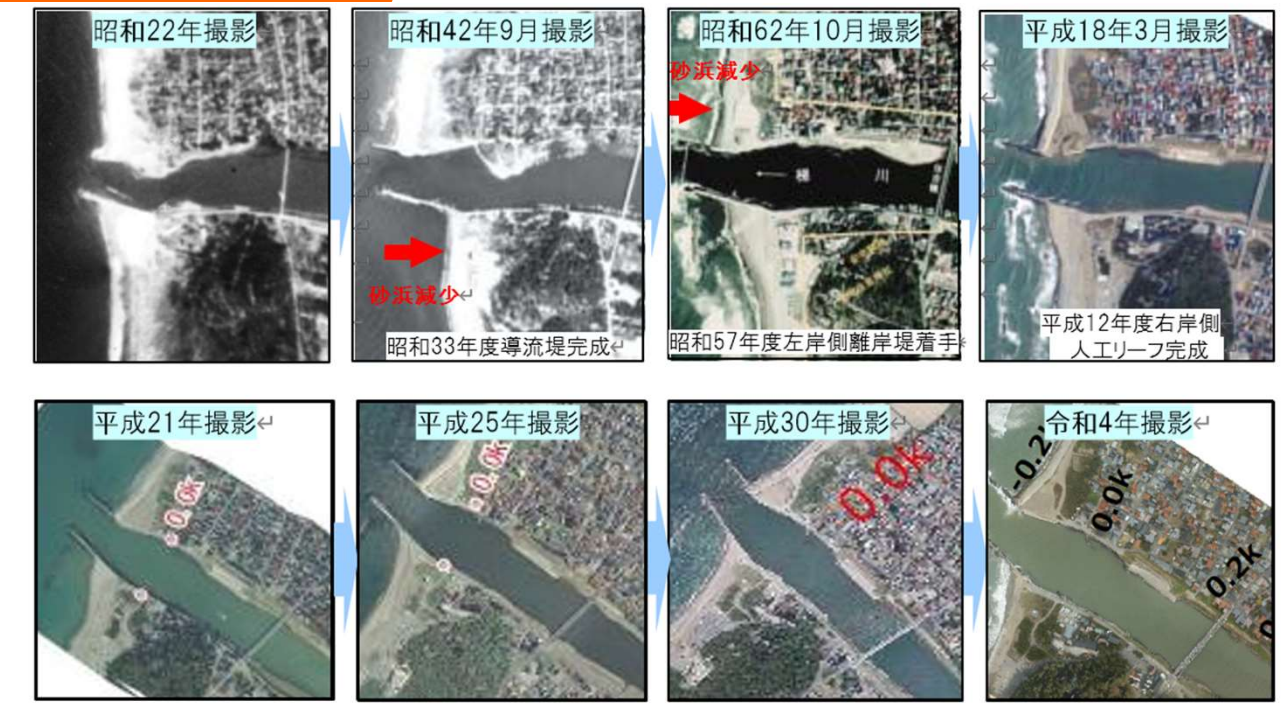
【令和5年調査】



○河口部では、導流堤の整備(昭和33年(1958年)完成)や安宅漁港の航路浚渫により、近年河口閉塞は生じていない。河口部の横断測量(0.0k地点)結果では経年的に安定しており、堆積・閉塞等は生じていない。

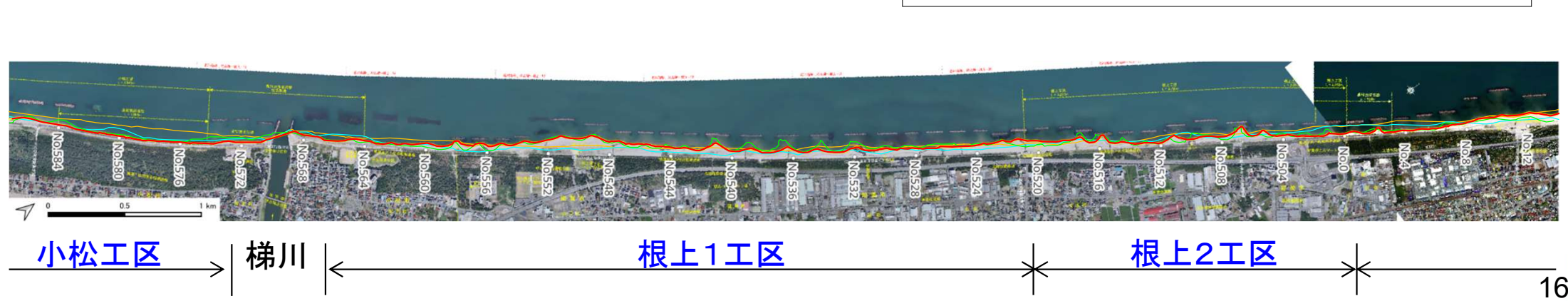
○梯川は土砂供給河川ではないものの、直轄海岸保全施設整備事業による侵食対策の実施等により梯川河口周辺の汀線は安定傾向となっている。

河口部の状況

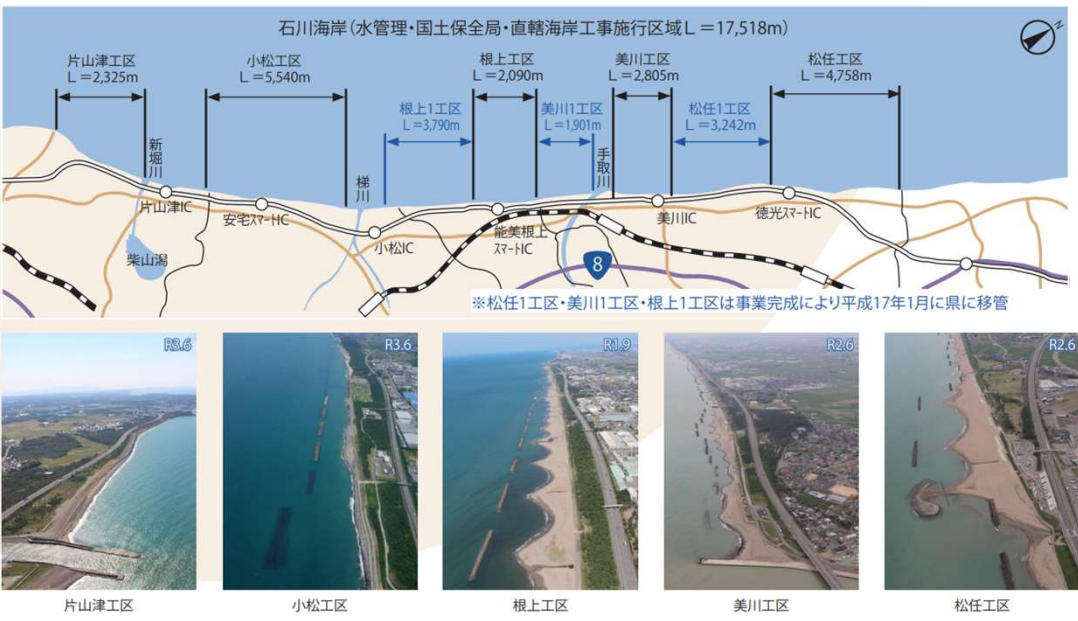


梯川河口部横断面図

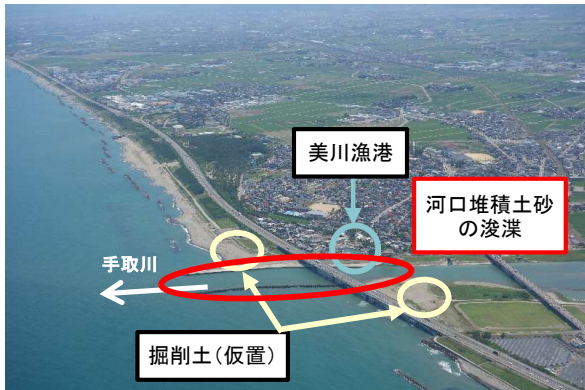
梯川周辺の汀線変化状況



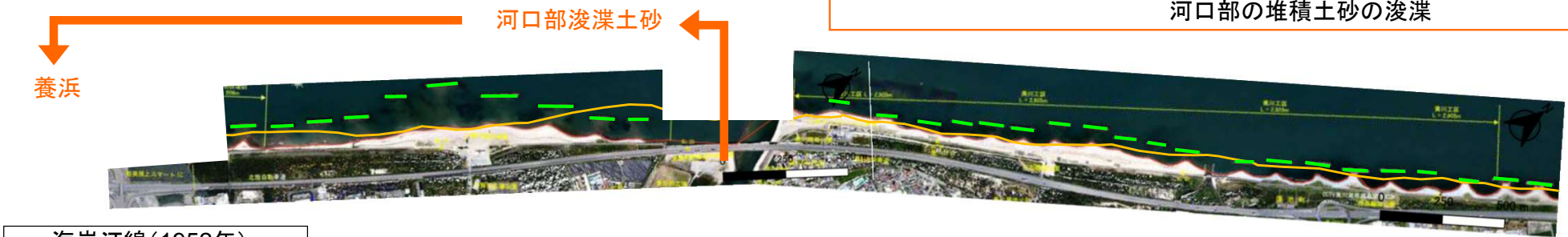
- 昭和30年代初めに海岸施設の被災が頻発したことを受け、昭和32年度(1957年度)に石川県による災害復旧として海岸堤防等の整備に着手。その後、抜本的な対策を行うために、昭和36年(1961年)に一部を直轄海岸工事施工区域に指定し、国による整備に着手した。
- 人工リーフ等の海岸保全施設の整備、継続的な養浜の実施により、各工区で汀線は前進傾向から安定傾向にある。



航空写真: 金沢河川国道事務所(撮影) 小松工区における養浜の実施



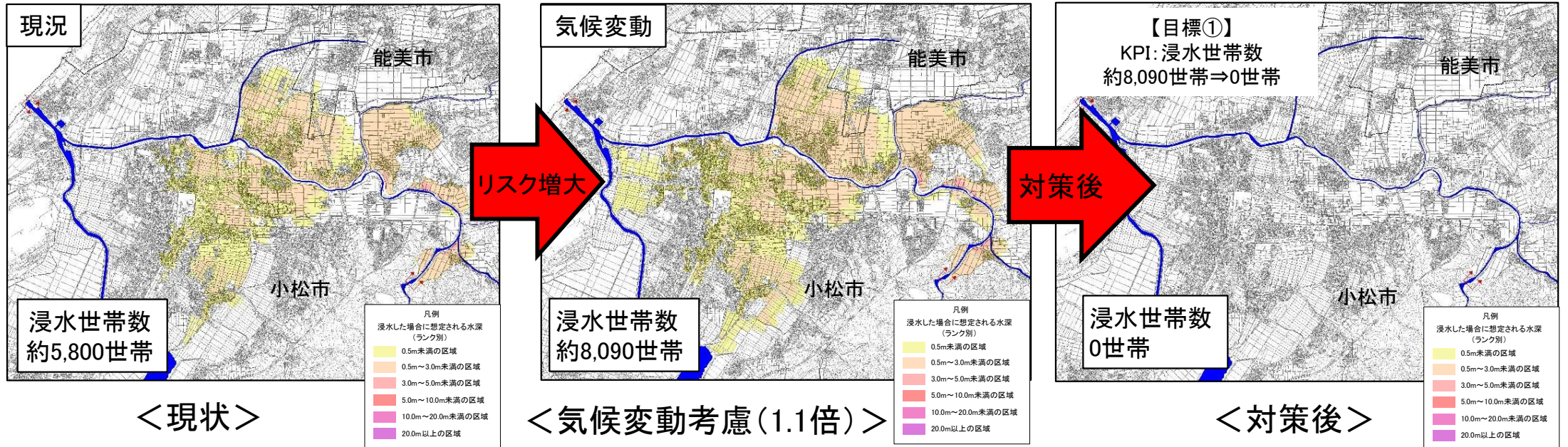
航空写真: 金沢河川国道事務所(撮影) 河口部の堆積土砂の浚渫



⑦流域治水の推進

○戦後最大規模の流量を記録したS34洪水と同規模の洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、梯川流域では浸水世帯数が約8,090世帯（現況の約1.4倍）になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大(大臣管理区間)



※大臣管理区間から氾濫した場合の浸水想定

※戦後最大規模流量のS34 × 1.1倍
※大臣管理区間から氾濫した場合の浸水想定

※大臣管理区間の河道整備及び洪水調節施設等の整備を実施した場合における、大臣管理区間から氾濫した場合の浸水想定

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後のS34洪水規模に対する安全の確保

梯川本川：河口(0.0k)～御茶用水頭首工付近(12.2k)

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約8,090世帯の浸水被害を解消	気候変動対応のための洪水調節施設の整備	概ね30年
被害対象を減らす	—			
被害の軽減・早期復旧・復興	—			

	氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
“量” の強化	○気候変動を踏まえた治水計画への見直し （2℃上昇下でも目標安全度維持） ＜具体の取組＞ ・気候変動対応のための洪水調節施設の整備 ○地域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・災害復旧、河道掘削、引堤、堤防整備、横断工 作物改築（橋梁改築）、河道拡幅、遊水地整備、 浸透対策等 ・赤瀬ダムの事前放流の実施、木場潟の事前排水 の実施・体制構築 ・内水排除のためのポンプ新設 ・排水ポンプ場の増強 ・排水路改修・雨水貯留施設整備 ・雨水排水計画の検討 ・水田貯留機能（田んぼダム）の検討 ・学校施設を活用した校庭貯留施設の整備 ○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞ ・砂防関係施設の整備 ・治山施設整備及び森林整備・保全の実施 ・事業間連携を通じた海岸侵食対策	○地域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・総合治水対策の推進に関する条例 ・住宅地盤の嵩上げ、雨水貯留槽等設置に対 する助成 ・立地適正化計画（防災指針）の策定による 水害リスクの低い地域への居住誘導や既成 市街地の防災力向上 ・リスクが高い区域における土地利用規（災 害危険区域等）	○地域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・要配慮者施設等における避難計画の作成及び 訓練実施の促進 ・水害リスク空白域の解消 ・地域防災計画の改定、防災ガイドマップの更 新 ・水位計、河川監視カメラの活用・増設 ・国・県・市町等が連携した水防訓練の取り組 み
“質” の強化	—	○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞ ・多段階な浸水リスク情報の充実	○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞ ・流域タイムラインの運用開始 ・自治体タイムラインの充実、マイ・タイムラ インの普及促進
“手段” の強化	○既存ストックの徹底活用 ＜具体の取組＞ ・農地、農業水利施設の活用（ため池事前放流等） ・農業排水施設の機能保全対策 ○インフラDX等における新技術の活用 ＜具体の取組＞ ・BIM/CIM適用による3次元モデルの積極的な活用	—	○インフラDX等における新技術の活用 ＜具体の取組＞ ・防災アプリの開発 ・WEBを活用した災害時の情報共有 ・LINEを活用した危機管理の強化 等 ・気象情報の充実、予報精度の向上等